本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

**第４問**（20点）

中庸工業㈱は、同一工程で等級製品Ａ、Ｂ、Ｃを連続生産している。製品原価の計算方法は、１か月の完成品総合原価を、各等級製品１個当たりの重量によって定められた等価係数に完成量を乗じた積数の比で、各等級製品に按分する方法を採用している。次の［資料］に基づいて、当月の月末仕掛品原価、完成品総合原価及び等級製品Ａ、Ｂ、Ｃの製品原価を計算しなさい。なお、原価投入額合計を完成品総合原価と月末仕掛品原価に按分する方法には先入先出法を用いるものとする。また、正常仕損は工程の終点で発生し、当該仕損品については40,000円の処分価値がある。

［資料］

１．生産データ　　（単位：個）

| | | |
|---|---|---|
| 月初仕掛品 | 600 | (30%) |
| 当月投入 | 9,400 | |
| 合計 | 10,000 | |
| 正常仕損 | 500 | |
| 月末仕掛品 | 800 | (20%) |
| 完成品 | 8,700 | |

（注）　完成品は、Ａが3,500個、Ｂが2,000個、Ｃが3,200個である。また、材料は工程の始点で投入し、（　）内は加工進捗度である。

２．原価データ

月初仕掛品原価

| | | |
|---|---|---|
| 直接材料費 | 480,000 | 円 |
| 加工費 | 216,000 | |
| 小計 | 696,000 | 円 |

当月製造費用

| | | |
|---|---|---|
| 直接材料費 | 7,520,000 | 円 |
| 加工費 | 11,016,000 | |
| 小計 | 18,536,000 | 円 |
| 合計 | 19,232,000 | 円 |

３．製品１個当たりの重量（単位：ｇ）

| A | B | C |
|---|---|---|
| 360 | 240 | 300 |

**第５問**（20点）

Ｚ社は製品Ａを量産しており、標準原価計算を採用している。次の［資料］にもとづいて、下記の各問に答えなさい。なお、製造間接費の配賦は変動予算を用い、機械加工時間を基準に配賦し、能率差異は変動費のみからなるものとする。

［資料］

１．製品Ａ１個の標準機械加工時間　1.5時間

２．当月正常直接作業時間　8,000時間

３．当月正常機械加工時間　9,000時間

４．製造間接費標準配賦率　850円/時間

５．当月生産データ

| | | |
|---|---|---|
| 月初仕掛品 | 500個 | （加工進捗度60％） |
| 当月完成品 | 5,000個 | |
| 月末仕掛品 | 1,000個 | （加工進捗度80％） |

６．当月の実際機械加工時間　8,988時間

７．当月実際製造間接費

| | |
|---|---|
| 変動費 | 1,502,660円 |
| 固定費 | 5,760,000円 |
| 合計 | 7,262,660円 |

（注）固定費の発生額は予算と同額であった。

**問１**　変動製造間接費の標準配賦率を計算しなさい。

**問２**　当月の標準配賦額を計算しなさい。

**問３**　製造間接費の差異分析を行いなさい。